

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は上値の重い展開か

〔3月11日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）				3月4日～3月8日	
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	150.09	150.57(4)	147.53(8)	147.92	-2.20
ユーロ・ドル	1.0842	1.0956(8)	1.0838(4)	1.0947	+0.0110
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
終値			前週末比		
日経平均株価	39,688.94	-221.88	日本10年債利回り	0.736	+0.019
ダウ平均株価	38,791.35	-296.03	米10年債利回り	4.083	-0.097
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 11日 日本第4四半期GDP 2次速報
- 12日 独2月消費者物価指数確報値
英2月雇用統計
米2月消費者物価指数
- 13日 英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支
ユーロ圏1月鉱工業生産指数
- 14日 スイス2月生産者輸入価格
カナダ1月製造業出荷
米2月小売売上高、米2月生産者物価指数
米新規失業保険申請件数
- 15日 カナダ1月卸売上高
米3月NY連銀製造業景気指数、米2月輸入価格指数
米2月鉱工業生産・設備稼働率
米3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】今後は米経済指標の結果に左右されそうだが、米国経済は堅調さが続くと思われる。ドルの底堅い動きは続くと思われる。日銀の金融政策に振り回されやすい動きも想定されるが、極端な円高に傾く可能性は想定しにくく、ドル円は150円附近で一進一退の動きになるとした。

【日銀のマイナス金利解除観測でドル円は下落】

ドル円は149-150円台でのみみ合いが続いた後にドル売り円買いに傾いた。日銀のマイナス金利解除観測などを背景に7-8日には147円台半ばまで下落する場面も見られた。

パウエル議長は6日の下院金融委員会での議会証言で、「年内いずれかの時点での利下げ開始が適切」「政策金利は今回の引き締めサイクルにおけるピークにある可能性が高い」「今年の利下げの回数は経済指標次第」などと述べたものの、「2%目標の確信が深まるまで利下げは適切ではない」と早期の利下げ期待をけん制した。ただ、年内の利下げに言及したこともあり、米長期金利の低下やドル売りにつながった。

国内では日銀のマイナス金利解除関連の報道が円買いの動きにつながっている。6日に「日銀の3月決定会合で、一部出席者がマイナス金利の解除が妥当と意見表明する見通し」との報道を受けて、ドル円は円高に傾いた。

7日午前中には一部報道で、「一部の政府関係者は日本銀行が3月か4月の金融政策

決定会合でマイナス金利を解除することへの容認姿勢を示している」と報じたことなどドル売り円買いにつながった。さらに同日に中川日銀委員が「日銀物価見通し実現の確度引き続き少しづつ高まっている」と述べている。

日銀の植田総裁も7日に2%の物価安定目標について、「実現する確度は引き続き高まっている」との認識を示した。実現が見通せる状況となれば、「マイナス金利政策などの大規模緩和策の修正を検討していく」と述べた。このところは日銀関係者のマイナス金利解除に向けた地ならしとみられる発言が相次いでおり、3月か4月の日銀金融政策決定会合でマイナス金利解除に動くとの見方が広がっている。

日銀のマイナス金利解除観測は確かに円買い要因として意識されるが、政策金利の－0.1%をゼロに戻しても0.1%の引き上げにとどまる。米国は5.25－5.50%、欧州中央銀行（ECB）は4.50%、英国は5.25%、カナダは5.00%となっており、利上げを繰り返してきた主要国に比べて異常に低い水準にとどまっている。マイナス金利を解除しても、その後利上げを繰り返す状況ではないとみられ、円買いに傾くのは一時的な動きにとどまりそうだ。

今後のドル円は米国の経済指標と日銀の政策変更が意識される展開となりそうだ。米経済指標は堅調なものも多いとみられるが、景気減速の可能性を示唆するものも増えてくる可能性がある。3月11日の週は12日発表の米2月消費者物価指数が特に注目される。前月は市場予想を上回る結果となり、市場の利下げ期待が後退して大きくドル買いに傾いた。今回の市場予想は前年比＋3.1%で前回と同水準、コア前年比は＋3.7%で前回の＋3.9%から伸びが鈍化する見通し。

市場予想を上回るとドル買いになる可能性がある。ただ、前回のようなサプライズはないとみられる。市場予想通りか、予想を下回るとドル円は上値の重い展開が続くこととなろう。日銀のマイナス金利解除観測も意識されて、ドル円は上値の重い展開が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、145.00～150.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本第4四半期GDP2次速報、12日に米2月消費者物価指数、14日に米2月小売売上高、米2月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、15日に米3月NY連銀製造業景気指数、米2月輸入価格指数、米2月鉱工業生産・設備稼働率、米3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ECB理事会では政策金利は据え置き】

3月7日の欧州中央銀行（ECB）理事会では市場予想の通り、政策金利は据え置きとなった。声明では、金利水準は十分に長期間、維持される必要があるとの見解が示された。ECBスタッフ予測のインフレ見通しでは、2024年は12月予測の2.7%から2.3%に、2025年は12月予測の2.1%から2.0%に下方修正された。

理事会後の記者会見で、ラガルド総裁は「インフレは低下傾向を続けていると見られるが、十分な確信はない」などと述べた。また、「6月にさらに多くのデータが得られる」と述べており、6月の利下げ開始の可能性を示唆した。

ドルの弱さもあって、ユーロドルは堅調に推移して1.09台を回復してきている。テクニカル的には5日移動平均線やボリンジャーバンド＋1σがサポートとして機能しており、引き続き堅調な推移が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0850～1.1050ドル。

ポンドドルは3月1日に1.2600近辺まで下落した後、上昇基調で推移している。ユーロドルと同様にドルの弱さもあり、堅調な推移が続いている。英中銀（BOE）による利下げは8月以降との見方が根強く、ECBに比べると利下げ開始時期見通しが遅くなっており、ポンドドルの底固さを支えている。こうした中、5日移動平均線やボリンジャーバンド＋1σがサポートとして、緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2650～1.2950ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12日に独2月消費者物価指数確報値、英

2月雇用統計、13日に英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支、ユーロ圏1月鉱工業生産指数、14日にスイス2月生産者輸入価格、カナダ1月製造業出荷、15日にカナダ1月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。